

背景図は、今年8月に発生した台風11号の予想進路図
（「台風情報」気象庁ホームページより）です。

10日15時

9日15時

08日15時

08日03時

特集 台風・集中豪雨に備える

あなたの家庭ではどのような防災対策をしていますか？

災害への対策に「完璧」はありません。自然は時に、私たちの想像をはるかに超える猛威を振るうことがあります。どんな状況でも落ち着いて対応できるように、いざという時に備えることが大切です。

問 総務課（内線224）

災害時の避難について

避難に関する情報

災害の危険が迫って避難が必要となったときに、市は状況に応じて避難に関する3種類の情報を発令します。市民の皆さんは、各情報に応じた避難行動を取ってください。避難の際は周囲の安全を確認して、市が開設する避難所、地域の集会場などの一時避難所または親戚や知人の家など安全な場所へ避難してください。

避難準備情報

避難に時間のかかる高齢者、体の不自由な方などは、早めに避難してください。そのほかの人も家族との連絡、非常持出品の準備をしてください。

避難勧告

お互いに助け合って、速やかに避難してください。避難が困難なときは、建物の2階以上の安全な場所または近隣の高い建物へ避難してください。

避難指示

生命に関わる危機が迫っています。直ちに避難してください。万一、避難する余裕がない人は、命を守る最低限の行動を取ってください。

早めの避難を

市は、気象情報や県からの助言などを参考に、避難に関する情報を発令します。しかし、全ての世帯に最適なタイミングで発令することはできません。また、ゲリラ豪雨などの場合には、市の避難勧告などの発令が間に合わないこともあります。自分自身が危険を感じたら、避難に関する情報が発表されていなくても、自主的に避難してください。

命を守る最低限の行動

風水害時の避難は、避難所などへの「水平避難」か、自宅や近隣建物の2階以上へ避難する「垂直避難」が基本です。しかし、土砂災害時に避難する余裕がないときは、鉄筋コンクリート造などの堅固な建物の2階以上の、斜面とは反対側にある部屋に避難するなど、命を守る最低限の行動を取ってください。



避難は慎重に

- 屋外を移動する際は次の点に注意してください。
- ▷道路が冠水している場合は、マンホールや側溝などに注意し、長靴ではなくシューズで移動する。
- ▷水路や河川には近づかない。▷地下道を選べる。
- ▷雷の音が聞こえたときは、車や頑丈な建物に避難する。避難する所が近くにない場合は、樹木などから離れた姿勢を低くする。

日頃から家族で話し合い、連絡先や避難場所までの経路を確認しておきましょう

自ら防災情報を入手しましょう

台風や集中豪雨は、ニュースやインターネットからある程度の情報を事前に得ることができます。日頃から天気予報を気に掛け、最新の情報を収集するようにしましょう。

土岐市HP(防災情報)

<http://www.city.toki.lg.jp/wcore/hp/menu000000100/hpg000000042.htm>

気象庁HP

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

岐阜県 川の防災情報

<http://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/>

岐阜県 土砂災害警戒情報ポータル

<http://alert.sabo.pref.gifu.lg.jp/>

国交省 XRAIN

<http://www.river.go.jp/xbandradar/>

土岐市情報提供サービスについて

防災無線で放送した情報を電子メールで提供するものです。登録は市ホームページから可能です。



携帯・スマートフォンは、こちらから



日頃から心掛けること

家の内外の風水害対策

台風や豪雨の到来は予測できるから、と安易に考えてはいけません。大雨や強風は、私たちに何度も大きな被害をもたらしています。台風の中心から離れた地域でも大雨が降ることがあります。油断せず日頃から十分な対策を立てておきましょう。

屋外

雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や土砂が詰まっているか。継ぎ目の外れや塗装の剥がれ、腐りはないか。雨戸にガタツキや緩みはないか。

ブロック塀

ひび割れや破損箇所はないか。

ベランダ

鉢植えや物干しざおなど飛散の危険が高い物は室内へ。

屋根

瓦のひび、割れ、ずれ、剥がれはないか。トタンのめくれ、剥がれはないか。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

窓ガラス

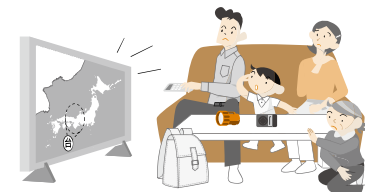
ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。また、強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を。

側溝

側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水をよくしておく。

屋内

- ▷停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備を。
- ▷避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備を。
- ▷気象情報を注意深く聞く。
- ▷断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。
- ▷浸水などの恐れがある場合は、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い場所へ。
- ▷高齢者や乳幼児、傷病者などは安全な場所へ。
- ▷むやみに外出しない。



必要な備えを

非常持出品・・・災害発生時に最初に持ち出すもの

- ▷飲料水(ペットボトル)
- ▷非常食(乾パン、缶詰など)
- ▷貴重品(現金、預貯金通帳、健康保険証、免許証、公衆電話の利用に10円玉も)
- ▷携帯ラジオ
- ▷懐中電灯
- ▷予備電池
- ▷医薬品(傷薬、ばんそうこう、胃薬などの常備薬)
- ▷ヘルメット・防災頭巾
- ▷生活用品(衣類、軍手、ナイフ、ライター、缶切り、簡易トイレなど)

備蓄品(数日~7日分)・・・地震への備えも含みます

- ▷飲料水(1人1日3リットル)
- ▷非常食
- ▷生活用品(カセットコンロ、予備のガスボンベ、毛布、衣類、洗面用具、マスク、トイレ用紙、ビニール袋、使い捨てカイロ、キッチン用ラップ、生理用品など)
- ▷工具類(スコップ、バール、のこぎり、車のジャッキなど)

非常持出品、備蓄品はマニュアル通りの物をそろえるだけでは足りません。家族の人数分をそろえるのはもちろんのことですが、乳幼児が居る家庭、妊婦が居る家庭、介護が必要な高齢者が居る家庭など、それぞれの家族構成に合わせた準備が必要です。